慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	20世紀ロシア農業史の焦眉の諸問題
Sub Title	The actual problems of the agrarian history of Russia of the 20th century
Author	Kondrashin, Viktor(Nobe, Koichi) 野部, 公一
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2018
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.111, No.3 (2018. 10) ,p.219(5)- 237(23)
JaLC DOI	10.14991/001.20181001-0005
Abstract	本稿では, 20世紀ロシア農業史の焦眉の諸問題が分析されている。それらは, ロシアにおける農民革命, 内戦への農民の関与, 農業集団化, 1932～1933年の飢饉, 農民意識の諸問題, 農業研究史等である。本稿では, 同時にこのテーマに関する国際プロジェクトの情報を含んでいる。これを踏まえた本論の結論は, ロシア農業史研究における国際協力の継続が必要であるということであり, とりわけ20世紀後半の農業史に関してそうである。 The article analyzes the actual problems of the agrarian history of Russia of the 20 th century. Among them : the peasant revolution in Russia, the participation of the peasantry in the civil war, the collectivization of agriculture, the famine of 1932–1933, the problems of peasant consciousness, the historiography of agrarian research, and others. The article deals with the most authoritative Russian and foreign researchers of the agrarian history of Russia of the 20 th century, including Japan. The article contains information about the most successful international projects on topical problems of the history of the peasantry and agriculture in Russia in the 20 th century, organized by leading Russian agricultural historians and their foreign counterparts. The article concludes that it is necessary to continue international cooperation in studying the actual problems of the agrarian history of Russia, especially the history of agriculture in the second half of the twentieth century.
Notes	特集 : 20世紀のソヴェト農民と農村社会
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20181001-0005

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「三田学会雑誌」111 巻 3 号（2018 年 10 月）

20 世紀ロシア農業史の焦眉の諸問題

ヴィクトル・コンドラーシン *
野部公一（訳）**

The Actual Problems of the Agrarian History of Russia of the 20 th Century

Viktor Kondrashin *
Translated by Koichi Nobe **

Abstract: The article analyzes the actual problems of the agrarian history of Russia of the 20 th century. Among them: the peasant revolution in Russia, the participation of the peasantry in the civil war, the collectivization of agriculture, the famine of 1932–1933, the problems of peasant consciousness, the historiography of agrarian research, and others. The article deals with the most authoritative Russian and foreign researchers of the agrarian history of Russia of the 20 th century, including Japan. The article contains information about the most successful international projects on topical problems of the history of the peasantry and agriculture in Russia in the 20 th century, organized by leading Russian agricultural historians and their foreign counterparts. The article concludes that it is necessary to continue international cooperation in studying the actual problems of the agrarian history of Russia, especially the history of agriculture in the second half of the twentieth century.

Key words: agrarian history, topical problems, the collectivization of agriculture, the famine of 1932–1933, international cooperation of researchers of the agrarian history of Russia

JEL Classifications: N54, P25, Q18

このテーマで本論文の著者は，2011 年 10 月 12 日の，ロシア科学アカデミー選挙と関連して組織されたロシア科学アカデミー歴史・考古学部会の学術会議で報告した。報告は，部分的に公刊された（Кондрашин В.В. Аграрная история России XX века: актуальность, проблемы, состояние, перспективы изучения // Материалы межрегиональной научно-практической конференции «Моя Малая Родина». Выпуск 8/под обш. ред. канд. ист. наук В.Е. Малязева. Степановка–Пенза, 2011. С. 150–154; Он же. Аграрная история России XX века: актуальность, проблемы, состояние, перспективы изучения // Вестник Самарского государственного университета. 2012. № 2. С. 11–16）。

* ロシア科学アカデミー・歴史研究所
Institute of History of the Russian Academy of Sciences
** 専修大学経済学部
School of Economics, Senshu University

20 世紀ロシア史は，農業・農民問題の深遠かつ全面的な研究なしには理解できない。なぜならば，少なくとも，それと分かち難く結びつき，それによって生み出された問題，その解決が，当該期における農業経済とその社会の発展だけではなく，現在の社会・経済的および政治的外観をも含む国全体の運命をも決定したからである。(1) 20 世紀ロシア農業史に取り組む際には，ロシアの農業史家のヴェ・ダニーロフのこのテーマについての言及を思い起こすのが適切である。それは「ソヴェト社会は，20 世紀初頭のロシアにおける偉大な社会革命によって創出されたが，その基盤は農民革命であった(2)」というものである。

20 世紀ロシア農業史に取り組むことは，ロシアの農民および農業の歴史を研究することによる「歴史家の人民に対する奉仕」という何世紀もの学術的伝統の継続でもある。その源泉は，ヴェ・クリュチェフスキー，ヴェ・セメノフスキーおよびその他の傑出した革命前の歴史家に発している。(3) それは維持され，より良き伝統は，彼らの継承者であるエヌ・ドルジニン，イ・ゴヴァリチェンコ，ア・アンフィモフ，エル・ミロフ，ユ・ポリャコーフ，ヴェ・カバーノフ，イ・ゼレーニン，エヌ・イヴニツキー，ヴェ・ダニーロフらの著作の中に見いだされる。(4) 農業史は，ロシアの研究者の諸世代の知性を刺激している。それは，農業史が人民の生活と結びついた無尽蔵の諸側面，題材を有しているからであり，全国津々浦々に住んでいるかつての農民の末裔（本論文の著者もその一人である）と切っても切れない結びつきを有しているからである。(5)

ロシアの農民的過去の現代史に対する影響をひとつだけあげよう。われわれが深く確信するところによれば，過去 10 年におけるロシアの政治的安定を確保したのは，ソヴェト人であり，それは農村から去り都市住民となった第一世代と，土地との結びつきを喪失しなかった彼らの子供であった。このため，経済危機の頂点の時期には，政権に反対する積極的な政治的行動ではなく，全国民的なダーチャ運動が発生したのである。(6) そして，今日においても，統計上の平均的なロシア世帯は，ソヴェト人の古い世代が生存しており，集団的および家父長的基盤，「共同体的集団的安全保障(7)」の諸

---

(1) Кондрашин В.В. The 20th Century History of Russia: through the history of the peasantry and agriculture // Русская революция. 1917. 2017., Jonse-university, Seoul, 2017 (Название сборника, статьи на корейском, русском и английском языках). С. 87–126.

(2) Кондрашин В.В. Крестьянство России в гражданской войне: к вопросу об истоках сталинизма. М.: РОССПЭН, 2009. С. 5.

(3) Кондрашин В.В. Судьбы российского крестьянства в творческом наследии В.О. Ключевского // Историк и история: материалы Всероссийской научной конференции, посвящённой 170–летию В.О. Ключевского. Пенза, 2010. С. 144–158.

(4) 詳細は，以下を参照。Историки-аграрники России XX–начала XXI вв.: творческий путь и международное сотрудничество. Выпуск первый. Прага: Vedecko vydavatelske centrum «Sociosfera-CZ», 2014. 198 с.

(5) このテーマに関しては，以下を参照。Кондрашин В.В. Аграрная история XX века. Историография и источники. / Под ред. Н.Н. Кабытовой, П.С. Кабытова, В.В. Кондрашина.– Самара: Изд-во «Самарский университет», 2014. 486 с.

原則が維持されている。以上の脈絡から，農業史の研究は，民族の深遠な源泉，伝統，精神性に注目することである。それらは，現在にいたるまで，現代ロシア人の日常生活だけでなく，ロシアの国家体制の政治的方向性の決定にも少なからぬ影響を有している。

このように，20 世紀ロシア農業史は，その歴史的経路，現在の最重要問題の本質理解という観点から，焦眉の課題なのである。その研究は，祖国史学の古くからの伝統の継続である。

20 世紀ロシア農業史の問題群は，極めて多様である。しかし，この多様性は，鍵となる諸側面に整理することが可能である。それは，過去 10 年において，ロシアの研究者も，外国の研究者も，基本的研究対象としてきたものなのである。それらは，協同研究プロジェクトをも含む膨大な分析活動の成果でもある。さらにそれらは，学者の，時代の要請に対する当然の反応である。というのも，それらの研究は，純粋に学問的な方向性だけではなく，より大きな社会的，さらには政治的意義をも持っていたし，これからも持ち続けるからである。

それらの課題を簡単に列挙しよう。

1） 農業問題と農民の 20 世紀最初の 10 年におけるロシアの革命的激震，すなわち 1917 年のボリシェヴィキ革命と内戦の発生と結果に対する影響
2） ソ連の強行的工業化の手段としての第一次五カ年計画期におけるスターリンの集団化の歴史とその諸結果（1932〜1933 年の飢饉等）
3） ソ連におけるポスト・スターリン期の農業政策の進化
4） ロシアにおける現在の農業政策

地域史の範囲におけるソヴェト農村の日常生活，オーラル・ヒストリー，農村や家族その他の歴史研究は，別個にあげるべきであろう。

これらすべてのテーマは，ロシアおよび外国の研究者によって，積極的に研究されてきたし，現在も研究されている。しかし，現在の歴史学的問題の状況は，それらへの伝統的な興味によってではなく，それらのもっとも重要な側面に関する知識の蓄積と先に特徴づけた現代性によって決定されている。

ここで，われわれは，評価を決定する真実の瞬間を迎えるのだが，20 世紀ロシア農業史の研究分野では，過去 10 年間においてロシア人学者および外国人の協力者は，著しい成果を達成した。その第一にあげるべきなのが，ロシア科学アカデミー・ロシア史研究所教授のヴェ・ダニーロフの指

---

(6) このことについての詳細は，以下を参照。Кондрашин В.В. Куда идет Россия? // Вестник Совета Федерации. № 7 (сентябрь 2016 года). С. 68–75.

(7) Кондрашин В.В. Реплика // Куда идет Россия?.. Кризис институциональных систем? Век, десятилетие, год / под общ. ред. Т. И. Заславской. М.: Логос, 1999. С. 103–104.

導の下，ロシア科学アカデミーの国際プロジェクトの枠内で行われた歴史家と公文書専門員の集団の禁欲的作業である。同作業には，本論文の著者も幸運にも参加したのだが，成果として『ロシアにおける農民革命』・『ソヴェト農村の悲劇：集団化とクラーク清算』・『全ロシア非常委員会（ヴェ・チェ・カ）ー合同国家保安部（オ・ゲ・ペ・ウ）ー内務人民委員部（エヌ・カ・ヴェ・デ）の目で見たソヴェト農村』[8]が刊行され，大量の史料を学術的分析に供したのである[9]。それら史料は，20 世紀前半のロシアの農民および農業史のもっとも重要な側面の実相の復元を可能にしたのである。

ダニーロフの指導した歴史家と公文書専門員の集団の活動は，ロシアの諸地域における農業研究，さらには一連の大規模国際プロジェクトの活性化のための刺激を与えた。

例えば，2000 年代初頭には，ロシアの地域農業史研究者と日本の学者によって，ソヴェト農民史研究に関する日ロプロジェクトが実施された。その組織者は，東京大学教授奥田央であった[10]。プロジェクト参加者の共同出版物には，ロシア農業史の焦眉の諸問題に関する日本の学者の見解が広範に示されている[11]。これは偶然ではない。日本においては，ロシア農民史を積極的に研究する歴史家と経済学者の固有の集団がかなり古くから形成されていたのである[12]。

その学術活動の成果は，極めて確固としたものであり，学界の注目に値する。なによりも，それ

---

(8) Кондрашин В.В. Советская деревня глазами ВЧК–ОГПУ–НКВД»: к итогам международного проекта // Вопросы истории. 2013. № 7. С. 162–170.

(9) Кананерова Е.Н. Международные проекты по аграрной истории России (конец XX–начало XXI вв.): автореф. дисс... канд.ист.наук. Пенза, 2007.

(10) プロジェクトの意図およびその成果については，以下を参照。Окуда Хироси. XX век и сельская Россия // Родина. Российский исторический журнал. 2005. № 10. Россия и Япония: от Путятина до Путина. С. 18.

(11) 以下を参照。XX век и сельская Россия. Российские и японские исследователи в проекте «История российского крестьянства в XX веке» / под ред. Хироси Окуды. Токио: CIRJE Research Report Series, CIRJE–R–2, 2005. 392 с.; Куракин А.А. Рецензия на книгу «XX век и сельская Россия» // Крестьяноведение: Теория. История. Современность: ученые записки. 2005. Вып. 5. М., 2006. С. 420–428, 431. この論集の基礎となっているのは，ロシアの歴史研究者の参加の下，2002 年 11 月と 2003 年 11 月に絶景の富士山麓の富士研修センターで開催された「富士コンファレンス」での日本の学者の報告テキストに加筆したものである。XX век и сельская Россия. Российские и японские исследователи в проекте «История российского крестьянства в XX веке». Выпуск 2. Под редакцией Хироси Окуды. CIRJE Research Report Series. CIRJE–R–9. Токио, 2012. 275 с. この論集には，東京大学経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター主催で 2011 年 11 月 26 日に開催された日露国際コンファレンスの資料が含まれている。本論文の著者も同コンファレンスに参加した。

(12) 他の日本人ロシア農業史研究者も，ロシアにおいて広範な知名度を得ている (Ю. Таниучи. К истории коллективизации сельского хозяйства в СССР: государство и община // Россия в XX веке: судьбы исторической науки. М., 1996. С. 364–372; Кимитака Мацузато. «Общественная ссыпка» и военно-продовольственная система России в годы Первой мировой войны // Крестьяноведение. Теория. История. Современность. Ежегодник. 1997. М., 1997. С. 147–216 и др)。

は，現実の焦眉であるが研究不十分なロシア史の諸問題（そこには前述の諸様相も含まれる）を明らかにし再確認するという観点から，研究者の国際協力の重要性を示している。[13]

とりわけ，プロジェクトの主導者である奥田央教授は，沿ヴォルガの集団化に関するしっかりとした著作を刊行しており，そこではその強制的性格が，説得的に示されている。それは，ロシア人の協力者である同じテーマの専門家とまったく同様である。[14] 自らの著作の中で，彼は最重要の問題——スターリン主義の社会的基盤の問題——を提起し，議論を活性化した。事実上，彼は「なぜ，農民国において，クラーク清算と組織化された飢饉を基盤とする強制的集団化という反農民的政策が勝利を収めたのか」という問題の解答を示した。その勝利は，その他の諸要素とともに，農村における多数の官僚によって支えられていたのである。そして，官僚は，なによりも農村の若者——「書類鞄のためにソーハー」を拒絶し，自らの農民的過去から決別した，農業史家が「脱農民化した」と称するコムニストとコムソモール員——から構成されていたのである。[15]

別の日本の研究者である梶川伸一は，「戦時共産主義」の問題に注目し，この政策は，国家の経済的荒廃に対するボリシェヴィキの反応であり，起こるべくして起こった現象であると論じた。[16] さらに彼は興味深い命題を提示した。それは，ボリシェヴィキのネップへの移行に際して決定的な意義をもったのは，なによりもわが国の農業における危機的な状況であって，クロンシュタットの反乱やタンボフ県のアントーノフ蜂起ではなかった，というものである。[17] 若干のロシアの研究者とは異なり，梶川伸一は，「レーニンのネップ」に関しても，農民の状況を根本的に改善したものとして理想化しない。彼により研究された諸事実は，反対のことを示している。このように，日本の研究者は，内戦期のソヴェト政権の農業政策に関する議論を活性化したのである。

---

(13) History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 1), Tokyo, 2002. 152 pp.; Newsletter. CIRJE (Center for International Research on the Japanese Economy. February 2002, № 4. p. 13; February 2003, № 5. p. 14; February 2005, № 7. p. 14; History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 2), Tokyo, 2004. 157 pp.

(14) Окуда Хироси. Революция в Поволжье: деревня при режиме Сталина 1929–1934 (на японском языке). Токио, 1996 [奥田央『ヴォルガの革命——スターリン統治下の農村』東京大学出版会，1996 年].

(15) Окуда Х. «От сохи к портфелю»: деревенские коммунисты и комсомольцы в процессе раскрестьянивания (1920-е–начало 1930-х гг.) // История сталинизма: итоги и проблемы изучения: материалы международной научной конференции. Москва, 5–7 декабря 2008 г. М.: РОССПЭН, 2011. С. 495–527 [奥田央「犂から鞄へ——脱農民化過程における農村のコムニストとコムソモール員（1920 年代から 1930 年代初頭）——」(野部公一・崔在東編『20 世紀ロシアの農民世界』日本経済評論社，2012 年)].

(16) Кадзикава С. О военном коммунизме // Россия в XX веке: судьбы исторической науки. М., 1996. С. 331–336.

(17) Он же. Что означает переход к нэпу в 1921 году? // XX век и сельская Россия. Выпуск первый. С. 87–110 [梶川伸一「共産主義『幻想』と 1921 年危機——現物税の理念と現実——」（奥田央編『20 世紀ロシア農民史』社会評論社，2006 年)].

プロジェクト参加者の鈴木健夫教授は，自らの注意をロシアの近代化というもっとも重要な問題の研究に集中した。彼は論争的な結論を引き出した。それは，国家の近代化というすべてのプロジェクトは，強固な共同体的秩序と衝突し，その克服は，ピョートル大帝の改革の過程においても，その後の時期においても，簡単なものではなかった，というものである。結局のところ，専制的ロシアは，農民共同体を打ち負かすことはできなかったのである。[18] ロシア歴史学において形成された農民共同体の運命に対する格別の関心という伝統を考慮すれば，鈴木健夫教授の考えは，そのテーマ自体がそうであるように，現代的意義をもつ。

東京外国語大学講師の広岡直子は，革命前およびネップ期のロシアにおける農村保健という，ロシアの研究者によって十分に研究されていない問題に注目した。[19] このテーマは，現在においても，さらなる研究が必要である。

専門家の国際協力の重要性を証明しているのは，崔在東教授の著作であり，そこでは，ロシアの歴史学においてしかるべき注目を受けていなかったストルイピン農業改革の諸様相（農民の遺言状と相続），さらにはゼムストヴォ活動（20 世紀初頭におけるロシア農村の防火対策）が考察されている。[20]

この脈絡で，ストルイピン農業改革は，その現代的意義を維持している。とりわけ，テ・キターニナによれば，有望な方向は，この改革の代替案の研究である。それは，ロシア農村におけるあらゆる形態の協同組合のより一層の発展と強化であり，しかも全面的な国家支持を伴ったものとして描写される。[21]

同じことは，20 世紀初頭のロシア農村近代化の時期におけるゼムストヴォ活動の歴史研究の現代

---

(18) Такэо Судзуки. Реформы и крестьянская община в дореволюционной России // History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 2), Tokyo, 2004. Edited by Hiroshi Okuda. The University of Tokyo. February 2004. CIRJE. Discussion paper series. Faculty of economics University of Tokyo. C. 142–148; Он же. Модернизирующаяся Россия и сельская община // XX век и сельская Россия. Выпуск первый. C. 38–43.

(19) Наоко Хироока. Государство–врач–крестьянин: история становления сельского здравоохранения в дореволюционной России // XX век и сельская Россия. Выпуск 2. C. 33–65 [広岡直子「国家・医師・農民——革命前ロシアにおける農村医療・保健史序説——」（前掲『20 世紀ロシアの農民世界』）]; Она же. Борьба с сифилисом и крестьянство в 1920-х годах // XX век и сельская Россия. Выпуск первый. C. 124–130.

(20) Джаедонг Чой. Личный надел (укреплённый надел в личную собственность домохозяев) в России во время Столыпинской аграрной реформы. History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 1), Tokyo, 2002. C. 93–101; Он же. Крестьянское завещание и наследование в период Столыпинской аграрной реформы // XX век и сельская Россия. Выпуск первый. C. 44–86; Он же. Земские противопожарные мероприятия в сельской России начала 20 века // XX век и сельская Россия. Российские и японские исследователи в проекте «История российского крестьянства в XX веке». Выпуск 2. C. 65–109 [崔在東「20 世紀初頭ロシア農村社会におけるゼムストヴォ防災事業」（前掲『20 世紀ロシアの農民世界』）].

性についても当てはまる。ゼムストヴォ統計および革命前ロシアの農民の日常生活におけるゼムストヴォの関与は，ロシアの研究者にとって，依然として重要なテーマである。[22]

上記プロジェクトの枠内において独創的なテーマとなっているのが，浅岡善治教授の研究である。彼は，ネップ期農村の農民向け出版物を研究し，確実な史料に基づき，農民向け刊行物が 1920 年代には農村の実生活を反映するものから，集団化期においては政治的宣伝物へと変化する過程を明らかにした。農村通信員運動の官僚主義化，農村向け出版物の部数減少は，「ソヴェト政権と農民全体との離間」という事実を確証した。[23] このような結論は，スターリンの集団化の強制的な性格を確証しているもうひとつの重要なディテールであり，20 世紀ロシア農業史におけるこの画期的な出来事にいまだ多くの様々な研究されていない側面が存在することを示している。

ロシアの研究者からしかるべき注目を向けられなかったテーマを取り上げたのが，松井憲明教授の 1956 年のコルホーズ定款に関する研究である。そこでは，定款をソヴェト戦後農村の生活における変化の徴候のひとつとして扱っている。[24] 同じことは，武田友加准教授の研究についても当てはまる。それは，1990 年代のロシア農村住民の物質的状況を明らかにしたものである。[25]

20 世紀ロシア農業史の現代的意義をもつ諸問題は，その他の国際的プロジェクトの枠内においても研究された。例えば，メルボルン大学教授のスティーブン・ウィートクロフトのイニシアチヴ

---

(21) このテーマに関して，本論文の著者は，革命前ロシア経済史の権威であるテ・キターニナと継続的な対話をもった (см.: Китанина Т.М. Россия в Первой мировой войне 1914–1917 гг.: экономика и экономическая политика. Курс лекций. СПБ.: ИЦ «Гуманитарная Академия», 2016. 352 с)。

(22) このことについては，以下を参照 (Королева Н.Г. Хозяйственно-экономическая деятельность земств в период модернизации российской деревни (1907–1914 гг.). М.: РОССПЭН, 2011. 215 с)。

(23) Дзендзи Асаока. Селькоровское движение в период НЭПа // History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 2), Tokyo, 2004. С. 148–155; Он же. Крестьянская печать и селькоровское движение в период НЭПа // XX век и сельская Россия. Выпуск первый. С. 111–123; Он же. Крестьянская печать и общественность в нэповской советской деревне: сельский корреспондент как деревенский актив // XX век и сельская Россия. Выпуск 2. С. 110–129 [浅岡善治「ネップ農村における社会的活動性の諸類型——村アクチーフとしてのセリコル——」(前掲『20 世紀ロシアの農民世界』)].

(24) Нориаки Мацуи. В поисках уставов колхозов 1956 г. (Заметки исследователя) // History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 1), Tokyo, 2002. С. 123–133; XX век и сельская Россия. Выпуск первый. С. 314–325.

(25) Юка Такэда. Временная или хроническая бедность в России ?: городские и сельские бедные в 1990-х годах // XX век и сельская Россия. Выпуск первый. С. 364–391 [武田友加「移行経済下ロシアの農村における貧困動態——都市の貧困動態との比較から——」(前掲『20 世紀ロシア農民史』)]; Она же. Структура занятости на селе и личное подсобное хозяйство в период экономического роста в России // XX век и сельская Россия. Выпуск 2. С. 270. [武田友加「ロシア農村におけるインフォーマル就労と農外雇用——経済成長下での個人副業経営の役割の変容——」(前掲『20 世紀ロシアの農民世界』)].

により実施されたプロジェクト「20 世紀の世界的飢饉」である。これには本論文の著者も参加した。[26] プロジェクトの目的は，20 世紀における世界の様々な諸国の食糧危機の地域的特殊性の分析にあった。そこには，3 つのソヴェト期の飢饉（1921〜1922 年，1932〜1933 年，1946〜1947 年）も含まれた。[27] この結果，現時点において，20 世紀ロシアの農業・食糧危機の国際的な脈絡および歴史回顧的な研究が，現代的意義をもつことが明瞭になった。

上記の方向性で，本論文の著者は，ロシア・ウクライナ共同プロジェクト「内戦期におけるロシアとウクライナの農民蜂起運動：共通点と特殊性」[28]「ソ連における 1932〜1933 年飢饉の現代ロシア・ウクライナの史学史」[29] 等を組織した。これらは，ロシアおよびウクライナの地域および中央の学術センターの研究者の力によって遂行された。プロジェクトにおいては，ロシアとウクライナの内戦期およびウクライナ・ソヴェト社会主義共和国とロシア・ソヴェト社会主義連邦共和国の 1932〜1933 年の飢饉の時期における農民運動の民族的・地域的特殊性に力点がおかれた。[30]

すでに紹介した例で，次のことは十分に結論づけることができる。それは，国際的なプロジェクトの枠組みの下で行われる 20 世紀ロシア農業史研究および専門者間のその諸様相に関する経験の交換は，この課題に進歩をもたらし，テーマを活性化させ，新たな史料・研究方法等を確定する重要な条件であるということである。

この関連で，内戦期におけるロシアの農民運動およびソ連における 1932〜1933 年の飢饉の地域的・民族的特殊性に焦点をあてた総合的な成果を出版する時が熟した。そこでの注目の中心は，まさに内戦期とソ連の 1932〜1933 年飢饉におけるロシアの農民運動の地域的・民族的特殊性となる

---

(26) Кондрашин В.В. Международная конференция в Австралии по проблеме голода в мировой истории XX в. // Государственная власть и крестьянство в конце XIX–начале XXI века: сборник статей. Коломна: Коломенский государственный педагогический институт, 2009. С. 397–402.

(27) Он же. Три советских голода // Аграрное развитие и продовольственная политика России в XVIII–XIX вв. Проблемы источников и историографии: история и современность. Оренбург: ОГПУ, 2007. Часть 2. С. 299–312.

(28) Деятели и события крестьянского повстанческого движения в Украине (1917-й–начало 1920-х годов). Выпуск 1 / сост. А. Капустян, В. Ткаченко. Запорожье, 2010. 152 с.

(29) Современная российско-украинская историография голода 1932–1933 гг. в СССР / науч. ред. В.В. Кондрашин. М.: РОССПЭН, 2011. 471 с.

(30) Кондрашин В.В. Голод 1932–1933 гг.–общая трагедия народов СССР: национально-региональный аспект // Советские нации и национальная политика в 1920–1950-е годы: Материалы VI международной научной конференции. Киев, 10–12 октября 2013 г. М.: Политическая энциклопедия; Фонд «Президентский центр Б.Н. Ельцина», 2014. С. 187–201; Он же. Документы российских архивов о трагедии Украины в 1932–1933 гг. // Голод 1933. Українці. Київ: Український інститут національної пам´яті, 2013. С. 305–346.

ことであろう。

この目的の達成のためには，すでに最初のかつ重要な足跡が記されている。例えば，ロシアの研究者によって，1917 年の大ロシア革命および内戦期の農民参加の地域的特殊性の研究において，多大な成功が収められた。ロシア基礎研究フォンドの支援の下，同テーマに関する数冊の共同著作および資料集が刊行された。[31] 初めて学術的利用に供された著しい量の公文書史料によって，内戦期の農民蜂起の基本的段階，その理念，白軍と反ボリシェヴィキ諸政党との関係が特徴づけられ，その自立的な性格が確証された。それまでに確立していた，ボリシェヴィキの政策に反対する農民蜂起を指導したのはエスエルとアナーキストであるという歴史学的な虚構は退けられた。精査された史料に基づき，ボリシェヴィキの白軍諸勢力に対する勝利は，赤軍と白軍の武力闘争の最盛期において，農民によるソヴェト政権への短期間の支持の結果，可能となったことが結論として導き出された。

ソ連における 1932～1933 年の飢饉の地域的および民族的特殊性は，ロシア連邦公文書総局の国際プロジェクトによる刊行物『ソ連における飢饉：1929～1934 年』[32] の中に見いだすことができる。プロジェクトの 4 巻本の史料と資料は，1930 年代初頭のソ連における飢饉は，客観的・主観的性格の諸要因の複合によってもたらされたことを証明している。とりわけ大きかったのは，スターリン指導部の農業政策であり，それは国家の強行的工業化の課題と結びついていた。われわれが見るところによれば，史料は，ウクライナ民族の「ホロドモール（人工的飢饉）による虐殺」理論を明瞭に否定し，1932～1933 年の飢饉はソ連の諸民族の共通の悲劇であったことを示している。このことについては，本論文の著者による多くの出版物の中でも語られている。[33] プロジェクトの 4 巻本の資料は，国際的機関でのいわゆるウクライナの「1932～1933 年のホロドモールによる虐殺」問題において，ロシアの利益を擁護するために，ロシアの国家機関によって積極的に利用された。

20 世紀ロシア農業史の史料の刊行は，現代のロシア歴史学における最重要の方針である。このことは，現在，かつては研究者がアクセスできなかったスターリン期のロシア大統領公文書館および

---

(31) Крестьянский фронт 1918–1922 гг. Сборник статей и материалов. Сост. и науч. ред. А.В. Посадский. М.: АИРО–XXI, 2013. 856 с.; «Атаманщина» и «партизанщина» в Гражданской войне: идеология, военное участие, кадры. Сборник статей и материалов. / Под ред. А.В. Посадского. М.: АИРО–XXI, 2015. 740 с.; Российское крестьянство в эпоху революций и гражданской войны: регионально-национальный аспект. / Отв. ред. В.В. Кондрашин, В.А. Юрченков. НИИ гуманитарных наук при Правительстве Республики Мордовия, Саранск, 2017. 880 с.; Крестьянство и казачество России в условиях революции 1917 г. и гражданской войны: национально-региональный аспект». / Отв. ред. В.В. Кондрашин, В.А. Юрченков. Москва; Саранск, 2017. 1048 с.

(32) Голод в СССР. 1929–1934: в 3 т. Т. 1: 1929–июль 1932: в 2 кн. Кн. 1 / отв. сост. В.В. Кондрашин. М.: МФД, 2011. 656 с.; Кн. 2. / Отв. сост. В.В. Кондрашин. М.: МФД, 2011. 560 с.; Т. 2 / Отв. сост. В.В. Кондрашин. М.: МФД, 2012. 980 с. Т. 3: Лето 1933–1934. / Отв. составитель В.В. Кондрашин. М.: МФД, 2013. 960 с.

連邦保安庁公文書館の史料が，現在も，広範な学術的利用に供されてきたし，今後もそうされるであろうという事実が証明している。[34] われわれの見るところでは，このような政策は継続するべきである。それは，とりわけ，ソヴェト農村およびソ連農業の戦後期の歴史研究に際してそうである。

ロシアの研究者の現在の著作を分析すると，われわれの見るところでは，現代ロシア歴史学の支配的な傾向となっているのは，わが国の農業史の地域的な特殊性を研究することであることがわかる。これは，ロシアにおける現在の歴史学の状況の特殊性でもあり，当然の帰結でもある。というのも，ロシア科学アカデミーのロシア史研究所における農業部門の廃止，さらには「ソヴェト学派」の高名な農業史家であったエル・ミーロフ，イ・コヴァリチェンコ，ア・アンフィモフ，ヴェ・ダニーロフ，イ・ゼレーニン他の死去の後，当該問題群の主要なかつもっとも熟練した専門家は，地方の研究・教育機関に集中したからである。

現在では，農業史家の地域グループが，ノヴォシビルスク，エカチェリンブルク，ヴォログダ，タンボフ，サマーラ，ペンザ，サランスクおよびその他の諸都市に形成されている。[35] 彼らの意識と活動は，科学アカデミーの研究所で活動したヴェ・ダニーロフと彼の世代の農業史家の疑うことのな

---

(33) Кондрашин В.В. Голод 1932–1933 годов: Трагедия российской деревни М.: РОССПЭН, 2008. 519 с.; Он же. Документы российских архивов о трагедии Украины в 1932–1933 гг. // Голод 1933. Українці. Київ: Український інститут національної пам´яті, 2013. С. 305–346; Kondrashine Victor. La famine en URSS. 1929–1934. Paris: AEHREE, 2013. 382 с.; Кондрашин. Хлебозаготовительная политика в годы первой пятилетки и её результаты (1929–1934 гг.) М.: Политическая энциклопедия, 2014. 375 с.; Kondrashin V.V. The Famine of 1932–1933 as a common tragedy of the nations of the USSR: national and regional aspects Northeast Asian Studies. Vol. 20. February 29, 2016. Center for Northeast Asian Studies Tohoku University. P. 27–38 и др

(34) 例えば，以下を参照。Кондрашин В.В. Источники по истории голода в СССР начала 1930-х гг. в Архиве Президента РФ Россия и мир XIX–XX в. // Сборник к 85-летию Бориса Васильевича Ананьича.–Лики России: Санкт-Петербург, 2017. С. 335–356; Он же. Документы Лубянки о положении в СССР в 1932–1934 гг. // «Совершенно секретно". Лубянка–Сталину о положении в стране (1922–1934 гг.)». Т. 10. 1932–1934 / Отв. ред. А.Н. Сахаров, В.С. Христофоров. В 3 частях–М.: Институт российской истории РАН, 2017. С. 4–54; «Первая заповедь»: Хлебозаготовки в СССР. 1931–1932 / Отв. составитель В.В. Кондрашин. М.: МФД, 2016. 784 с. и др.

(35) このテーマに関する詳細は，以下を参照。Аграрная история XX века: историография и источники / под ред. Н.Н. Кабытовой, П.С. Кабытова, В.В. Кондрашина. Самара: Изд-во «Самарский университет», 2014. 486 с.; Крестьянство в российских трансформациях: исторический опыт и современность: Материалы III Всероссийской (XI Межрегиональной) конференции историков-аграрников Среднего Поволжья (Ижевусек, 17–19 октября 2010 г.) / Отв. ред. Г.А. Никитина. Ижевск: Изд-во «Удмуртский университет», 2010. –546 с.; Российское крестьянство в условиях военных, социально-экономических и политических потрясений: мат. межд. науч.-практ. конф. Мичуринск: Изд-во Мичуринского ГАУ, 2016. 92 с.

い影響を受けている。[36] 本論文の著者もまたヴェ・ダニーロフの弟子である。[37]

20 世紀ロシア農業史研究の地域センターの中で疑いのないリーダーの立場にあるのが，ノヴォシビルスクの科学アカデミー・シベリア支部の歴史研究所の農業部門（指導者はヴェ・イリヌウィフ）である。同研究所の研究者は，ヴェ・イリヌウィフ部門長の指導の下，一連のしっかりとした研究を行っており，それらでは 20 世紀全期にわたる西シベリアの農業史を明らかにしている。[38]

農業研究のもうひとつの主導的センターは，科学アカデミー・ウラル支部の歴史・考古学研究所の経済史部門であり，指導者はゲ・コルニーロフである。彼とその同僚は，部門および研究所として，ロシアの食料安全保障とロシア農村における人口学的過程の諸問題を研究の中心としている。現段階において，ウラル地域の農業発展の文脈の下での 20 世紀ロシアにおける食料問題の解決，工業化と都市化過程の農村人口動態への影響を明らかにする著作が刊行されている。[39]

---

(36) Кондрашин В.В. Международные проекты по аграрной истории России XX века и развитие региональной историографии // Центр и периферия. Саранск: НИИ гуманитарных наук. 2008. № 4. С. 25–30.

(37) Кабытов П.С. Аграрная история в трудах В.В. Кондрашина // Великие реформы 1860–1870-х годов и аграрная Россия: сб. статей VI Междунар. науч.-практ. конф. / науч. ред. Г. Е. Корнилов, В.А. Лабузов. Оренбург: Изд-во ГБУ «Региональный центр развития образования Оренбургской области», 2011. С. 236–239; Новейшие исследования историков Поволжья. Выпуск 2. Пенза: ГУМНИЦ, 2011. С. 4–26.

(38) Андреенков С.Н. Колхозно-совхозная система в Сибири в 1946–1964 гг.: функционирование и реформирование. Новосибирск: Сибпринт, 2016. 256 с.; Красильников С.А. Крестьянская ссылка в Западной Сибири в 1930-е годы. 2-е изд. М.: РОССПЭН, 2009. 344 с.; Проекты преобразования аграрного строя Сибири в XX в.: выбор путей и методов модернизации / Ильиных В.А., Андреенков С.Н., Рынков В.М. и др. Новосибирск: Сибпринт, 2015. 298 с.; Рынков В.М., Ильиных В.А. Десятилетие потрясений: сельское хозяйство Сибири в 1914–1924 гг. Новосибирск: Институт истории СО РАН, 213 с.; Сибирская деревня: проблемы истории: сб. науч. тр. / отв. ред. В.А. Ильиных. Новосибирск: Сибпринт, 2015. Вып. 3. 258 с. и др.

(39) Аграрное развитие и продовольственная безопасность России в XVIII–XX веках: сб. статей / гл. ред. Г. Е. Корнилов. Оренбург: Изд-во ОГПУ, 2006. 420 с.; Аграрное развитие и продовольственная политика России в XVIII–XX веках: проблемы источников и историографии: сб. статей / гл. ред. Г. Е. Корнилов. Оренбург: Изд-во ОГПУ, 2007. 584 с.; Корнилов Г.Е. Демографические катастрофы в XX веке на Урале // Ежегодник по аграрной истории Восточной Европы. 2016 год. Аграрное освоение и демографические процессы в России X–XXI века. / Отв. Е.Н. Швейковская. М., Уфа, 2016. С. 490–502; Мазур Л.Н. Российская деревня в условиях урбанизации: региональное измерение (вторая половина XIX–XX в.). Екатеринбург: Изд-во Урал. ун-та, 2012. 472 с.; Нефедов С.А. Уровень жизни населения и аграрное развитие России в 1900–1940 годах. М.: Издательский дом «Дело» РАНХиГС, 2017. 432 с.; Пьянков С.А. Крестьянское хозяйство Пермской губернии в конце XIX–начале XX века. Екатеринбург: РИО УрО РАН, 2014. 216 с. и др.

ゲ・コルニーロフは，オレンブルク市で一連の大規模な全ロシアおよび国際会議を組織した。そこでは，上述の諸問題の様々な様相が取り上げられた。そのうえ，彼は 20 世紀ロシア農業史全体を，近代化概念の枠内で理論的な解釈を与えようとするもっとも活動的な論者の一人でもある。(40)

同様の方向で研究を行っているのが，ヴォログダの農業史家であり，それはロシア農業史のもうひとつの権威のあるセンターとなっている。その主導的研究者であるエム・ベズニンとテ・ディモーニは，1930〜1980 年代におけるソヴェト農村の資本化という概念を提示した。それは，この時期をソヴェト農業経済のその後の市場移行への基盤として考えるというものである。(41)

20 世紀および現在のロシア農業史の焦眉の諸問題の理論および研究手法は，ロシア大統領付属国民経済・公共行政アカデミー（РАНХиГС при Призиденте РФ）の農業研究センターの研究者の関心の中心を占めている。彼らは，農民学を人文科学の中の独立した分野として考えている。(42) センターは，ヴェ・ダニーロフとテ・シャーニンが着手した，ロシアおよび諸外国のもっとも現代的意義をもち，論争的な農業史の諸問題の理論的考察という伝統を継承している。そこには，20 世紀および現代の観点からのものも含まれている。(43)

この方向性は，ロシアの研究者およびペ・マクチェニヤおよびエス・ラージンの学術セミナーの枠内で支持され，そこでは，ロシアの農民にとって重要な 20 世紀の歴史，すなわち，第一次世界大戦，革命，集団化等が議論されている。(44)

われわれの見るところでは，20 世紀ロシア農業史のもっとも重要な諸問題を諸外国の農業史との

---

(40) Корнилов Г.Е. Аграрная модернизация России в XX веке // Ежегодник по аграрной истории Восточной Европы. 2012 год: Типология и особенности регионального агарного развития России и Восточной Европы X–XXI вв. М.; Брянск, 2012. С. 607–620.

(41) Безнин М.А., Димони Т.М. Аграрный строй России 1930–1980-х годов. М.: ЛЕНАНД, 2014. 608 с.

(42) ロシア大統領付属国民経済・公共行政アカデミーの農業研究センターの活動に関しては，以下を参照。Крестьяноведение. 2016. Том 1; 2017. Том 2. № 1, 2.

(43) 農業研究センターの研究員ヴェ・ババーシキンのイニシアチヴによって，ヴェ・ダニーロフの理論セミナー「農業発展の現代的コンセプト」のすべての資料が公刊された (Современное крестьяноведение и аграрная история России в XX веке / под ред. В.В. Бабашкина. М.: Политическая энциклопедия, 2015. 743 с)。

(44) 例えば, 以下を参照。Крестьянство и власть в истории России XX века: Сборник научных статей участников Международного круглого стола («Журнал «Власть», Институт социологии РАН, Москва, 12 ноября 2010 г.) / под ред. П.П. Марченя (отв. ред.), С.Ю. Разина. М.: АПР, 2011. Вып. 2. 472 с.; Сталинизм и крестьянство: сборник научных статей и материалов круглых столов и заседаний теоретического семинара «Крестьянский вопрос в отечественной и мировой истории / под ред. П.П. Марченя (отв. ред.), С.Ю. Разина. М.: Изд-во Ипполитова, 2014. Вып. 4. 765 с.; Русское крестьянство и Первая мировая война: сборник научных статей / под ред. П.П. Марченя (отв. ред.), С.Ю. Разина. М.: Изд-во Ипполитова, 2016. 810 с. и др.

比較で理論的に解釈することは，現代のロシア農業史家にとってもっとも展望のある方向性のひとつである。[45]

これと並んで，展望のある方向性をさらにひとつあげれば，それは20世紀のロシア農民の社会，社会文化，ジェンダー問題の研究である。そこには，農民心理および農民の日常生活も含まれる。同列のものとしては，地方史，オーラル・ヒストリー，家族史がある。われわれの見るところでは，これら研究の発展の疑うことのない契機となったのは，モスクワでの国際会議「心理とロシアの農業発展（19〜20世紀）」である。それは，ロシア科学アカデミー歴史部会のイニシアチヴにより1994年6月に開催された。[46]

現在，農民の日常生活，農村家族，ロシア農村における女性と男性の相互関係，農民的営業（промыслы），集落史，スターリン期に関する農民の記憶等の一連の興味深い研究が出版された。[47]

われわれの見るところ，20世紀ロシア農業史に関する公刊文献の分析は，20世紀前半は，時期的にもテーマ的にも，研究者によってもっとも大規模に研究されていると結論づけられよう。20世紀後半においても，格別な注目が必要である。戦後期，「ゴルバチョフ改革」の時代，ソヴェト後の新たなロシアの時代における，ロシアの農業制度の進化の数多くの最重要諸側面の深遠かつ全面的な分析が必要である。しかもそれは，新しくかつ信頼できる諸史料に基づかなくてはならない。

ロシア国家の連邦的特徴，農業経済および農村地域に存在する現代の諸問題の複雑性を考慮すれば，地域・民族的な切り口による研究は，とりわけ現代的意義を有している。われわれの見るところでは，ソヴェト農村の戦後の発展およびわが国農業の地域的特殊性を特徴づける一連の真剣な研

---

(45) 20世紀ロシア農業史研究に対するこのようなアプローチの成功例のひとつが，次にあげるロシア科学アカデミー世界経済・政治研究所東欧研究センターの出版物である。Аграрная реформа в странах Центрально-Восточной Европы и России (1990–2000). М.: Наука, 2003. 255 с.

(46) Менталитет и аграрное развитие России (XIX–XX вв.). Материалы международной конференции. М.: Российская политическая энциклопедия (РОССПЭН), 1996. 440 с.

(47) 例えば，以下を参照。Безгин В. Повседневный мир русской крестьянки периода поздней империи. М.: Ломоносов, 2017. 248 с.; Вербицкая О.М. Сельская семья на этапе социально-экономических трансформаций 1985–2002 гг. М.: Институт российской истории РАН; Центр гуманитарных инициатив, 2017. 408 с.; Кознова И.Е. Сталинская эпоха в памяти крестьянства России. М.: Политическая энциклопедия, 2016. 464 с.; Коляскина Е.А. Женщина и мужчина в русской деревне Алтая. Бийск: ФГБОУ ВПО «АГАО», 2015. 296 с.; Костяшев Ю.В. Повседневность послевоенной деревни: Из истории переселенческих колхозов Калининградской области. 1946–1953 гг. М.: Политическая энциклопедия, 2015. 263 с.; Николаев Г.А. Волжское крестьянство во второй половине XIX–начале XX века: этюды по истории и этнологии. Чебоксары: ЧГИН, 2016. 312 с.; Никулин В.Н. Крестьянские промыслы на Северо-Западе России (вторая половина XIX–начало XX века. СПб.: Дмитрий Буланин, 2017. 416 с.; Ястребинская Г.А. Таежная деревня Кобелево. История советской деревни в голосах крестьян: 1992–2002. М.: Памятники исторической мысли, 2005. 348 с. и др.

究がすでに公刊されている。[48] この方向性は，無条件で，現代のロシア研究者にとっての優先課題のひとつである。

ロシアの研究者によって蓄積された20世紀の農業史の知識は，われわれの見るところでは，今や，ロシアにおける農民革命およびスターリン期の集団化について，その地域・民族的特殊性に力点をおいた総括的著作を生み出すに足る基盤を有している。

対象期の研究においては，ロシアの農業史家の諸世代により蓄積された莫大な経験を考慮した20世紀ロシア農業歴史学に関する総括的研究も必要である。この方向に向けた一定の試みはすでに着手されている。[49]

20世紀および最新のロシア農業史の様々な諸側面の研究において，学際的なアプローチを強化することも，現代的意義を有している。例えば，ロシア農村における経済的および人口学的過程，農業経済全体，農村改革の様々な代替案の分析および記述の際には，数学やコンピューター技術を利用することが目的にかなっている。農業史家と民俗学者，文化学者と言語学者の協力も，ロシアの農民史・農業史の社会文化的および人口学的な諸側面の研究に際して，可能であろう。

20世紀ロシア農業史の様々な諸問題の研究分野において，ロシアと諸外国の研究者間の学術的交流を維持し，それを全面的に発展させることが必要である。そこには比較史的な脈絡のものが含まれ，とりわけかつての「社会主義システム」諸国，旧ソ連共和国等に関して当てはまる。

[訳注・本論文で言及されている日本人研究者の所属および職位は，言及されている研究が公刊された当時のものであり，必ずしも現在のものとは一致しない。]

参 考 文 献

Agrarnaya istoriya XX veka: istoriografiya i istochniki / pod red. N.N. Kabitovoy, P.S. KAbitova, V.V. Kondrashina. Samara: Izd-vo «Samsrskiy universitet», 2014.

Agrarnaya reforma v stranah Centralno-Vostochnoy Evropi i Rossii (1990–2000). M.: Nauka, 2003.

Agrarnoe razvitie i prodovolstvennaya bezopasnost Rossii v XVIII–XX vekah: sb. statey / gl. red. G.E. Kornilov. Orenburg: Izd-vo OGPU, 2006.

(48) 例えば，以下を参照。Безгин М.А. Крестьянские бюджеты в 1940–1960-е гг. Вологда: Легия, 2002. 100 с.; Бикейкин Е.Н. Аграрная модернизация во второй половине 1950-х–начале 1960-х гг.: региональный дискурс (По материалам Марийской, Мордовской и Чувашской АССР). Саранск, НИИ гуманитарных наук при Правительстве Республики Мордовия, 2016. 272 с.; Хасянов О.Р. Очерки истории повседневной жизни советского крестьянства (на материалах Куйбышевской и Ульяновской областей). Ульяновск, Изд-во «УГСХА», 2015. 266 с. и др.

(49) 例えば，以下を参照。Берлов А.В. Российская аграрно-научная эмиграция в Европе в 1920–1930-е гг. М., Граница, 2014. 200 с.; Историки-аграрники России XX–начала XXI вв.: творческий путь и международное сотрудничество. Выпуск первый. Прага: Vedecko vydavatelske centrum «Sociosfera-CZ», 2014. 198 с. и др.

Agrarnoe razvitie i prodovolstvennaya politika Rossii v XVIII–XX vekah: iproblemi istochnikov I istoriografii сб. статей / sb. statey / gl. red. G.E. Kornilov. Orenburg: Izd-vo OGPU, 2007.

Andreenkov S.N. Kolhozno-sovhoznaya sistema v Sibiri v 1946–1964 gg.: funkcionirovanie i reformirovanie. Novosibirsk: Sibprint, 2016.

Asaoka Jenji. Krestyanskaya pechat i obshestvennost v nepovskoy sovetskoy derevne: selskiy correspondent kak derevenskiy aktiv // *XX vek i selskaya Rossiya.* Vipusk 2.

Asaoka Jenji. Krestyanskaya pechat i selkorovskoe dvizhenie v period NEPa // *XX vek i selskaya Rossiya.* Vipusk perviy.

Asaoka Jenji. Selkorovskoe dvizhenie v period NEPa // *History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 2)*, Tokyo, 2004.

«Atamanshina» i «partizanshina» v Grazhdanskoy voine: ideologiya, voennoe uchastie, kadri. Sbornik statey i material. / Pod red. A.V. Posadskogo. M.: AIRO–XXI, 2015.

Berlov A.V. Rossiyskaya agrarno-nauchnaya emigraciya v Evpope v 1920–1930-e gg. M., Graniza, 2014.

Bezgin V. Povsednevniy mir russkoy krestyanki perioda pozdney imperii. M.: Lomonosov, 2017.

Bezgin M.A. Krestyanskie budzheti v 1940–1960-e gg. Vologda: Legiya, 2002.

Beznin M.A., Dimoni T.M. Agrarniy story Rossii 1930–1980-h godov. M.: LENAND, 2014.

Bikeykin E.N. Agrarnaya modernizaciya vo vtoroy polovine 1950-h–nachale 1960-h gg.: regionalniy diskurs (Po materialam Mariyskoy, Mordovskoy i Chuvashskoy ASSR). Saransk, NII gumanitarnih nauk pri Pravitelstve Respubliki Mordoviya, 2016.

Choi Jaedong. Krestyanskoe zaveshanie i nasledovanie v period Stolipinskoy agrarnoy reformi // *XX vek i selskaya Rossiya.* Vipusk perviy.

Choi Jaedong. Lichniy nadel (ukreplenniy nadel v lichnyu sobstvennost domohozyaev) v Rossii vo vremya Stolipinskoy agrarnoy reformi. // *History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 1)*, Tokyo, 2002.

Choi Jaedong. Zemskie protivopozharnii meropriyatiya v selskoy Rossii nachala 20 veka // *XX vek i selskaya Rossiya. Rossiyskie i yaponskie issledovateli v proekte «Istoriya rossiyskogo krestyanstva v XX veke».* Vipusk 2.

XX vek i selskaya Rossiya. Rossiyskie i yaponskie issledovateli v proekte «Istoriya rossiyskogo krestyanstva v XX veke» / pod red. Hiroshi Okudi. Toекio: Cirje Research Report Series, Cirje-R-2, 2005.

Deyateli i sobitiya krestyanskogo povstancheskogo dvizheniya v Ukraine (1917–nachalo 1920-h godov). Vipusk 1 / sost. A. Kapustyan, V. Tkachenko. Zaporozhye, 2010.

Golod v SSSR. 1929–1934: v 3 t. T. 1: 1929–iul 1932: v 2 kn. Kn. 1 / otv. sost. V.V. Kondrashin. M.: MFD, 2011; Kn. 2. / Otv. sost. V.V. Kondrashin. M.: MFD, 2011; T. 2 / Otv. sost. V.V. Kondrashin. M.: MFD, 2012 / T. 3: Leto 1933–1934. / Otv. sost. V.V. Kondrashin. M.: MFD, 2013.

Hasyanov O.R. Ocherki istorii povsednevnoy zhizni sovetskogo krestyanstva (na materialah Kuybyshevskoy i Ulyanovskoy oblastey). Ulyanovsk, Izd-vo «UGSHA», 2015.

Hirooka Naoko. Gosudastvo–vrach–krestyanin: istoriya stanovleniya selskogo zdravoohraneniya v dorevolucionnoi Rossii // *XX vek i selskaya Rossiya.* Vipusk 2.

Hirooka Naoko. Borba s sifilisom i krestyanstvo v 1920-h godah // *XX vek i selskaya Rossiya.* Vipusk perviy.

History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 1), Tokyo, 2002.

History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 2), Tokyo, 2004.

Istopiki-agrarniki Rossii XX–nachala XXI vv.: tvorcheskiy put i mezhdunarodnoe sotrudnichestvo. Vipusk perviy. Praga: Vedeko vydavatelske centrum «Sociosfera-CZ», 2014.

Istoruki-agrarniki Rossii XX–nachala XXI vv.: tvorcheskiy put i mezhdunarodnoe sotrudnichestvo. Vipusk perviy. Praga: Vedecko vydavatelske centrum «Sociosfera-CZ», 2014.

Kabitov P.S. Agrarnaya istoriya v trudah V.V. Kondrashina // *Velikie reformi 1860–1870-h godov i agrarnaya Rossiya: sb. statey VI Mezhdunar. nauch.-prakt. konf. / nauch. red. G. E.* Kornilov, *V/A. Labuzov.* Orenburg: Izd-vo GBU «Regionalniy centr razvitiya obrazovaniya Orenburgskoy oblasti», 2011.

Kadzikava S. Chto oznachaet perehod k nepu v 1921 godu // *XX vek i selskaya Rossiya.* Vipusk perviy.

Kadzikava S.O voennom kommunizme // *Rossiya v XX veke: sudbi istoricheskoi nauki.* M., 1996.

Kananerova E.N. Mezhdunarodnii proekti po agrarnoi istorii Rossii (конец XX–nachalo XXI vv.): avtoref. diss... кand.ist.nauk. Penza, 2007.

Kitanina T.M. Rossiya v Pervoy mirovoi voine 1914–1917 gg.: economica i economicheskaya politika. Kurs lekciy. SPB: IC «Gumanitarnaya Akademiya», 2016.

Kolyaskina E.A. Zhenshina i muzhchina v russkoy derevne Altaya. Biisk: FGBOU VPO «AGAO», 2015.

Kondrashin V.V. Agrarnaya istoriya XX veka. Istoriografiya i istochniki / Pod red. N.N. Kabitivoi, P.S. Kabitova, V.V. Kondrashina. Samara: Izd-vo «Samarskiy universitet», 2014.

Kondrashin V.V. Agrarnaya istoriya Rossii XX veka: aktualnost, problemi, sostoyanie, perspektivi izucheniya // *Vestnik Samarskogo gosudarstvennogo universiteta.* 2012. № 2.

Kondrashin V.V. Agrarnaya istoriya Rossii XX veka: aktualnost, problemi, sostoyanie, perspektivi izucheniya // *Materiali mezhregionalnoy nauchno-prakticheskoy konferenzii «Moya Malaya Rodina». Vipusk 8 / pod obsh. red. kand. Ist nauk V.E. Malyazeva.* Stepanovka-Penza, 2011.

Kondrashin V.V. Dokumenti Lubyanki o polozhenii v SSSR v 1932–1934 gg. // *«Sovershenno sekretno». Lubyanka – Stalinu o polozhenii v strane (1922–1934 gg.)».* T. 10. 1932–1934 / Onv. red. A.N. Saharov, V.S. Hristoforov. V 3 chastyah. M.: Institute rossiyskoy istorii RAN, 2017.

Kondrashin V.V. Dokumenti rossiyskih arhivov o tragedii Ukraini v 1932–1933 gg. // *Golod 1933. Ukrainsi.* Kiev: Ukrainskiy institute nacionalnoy pamyati, 2013.

Kondrashin V.V. Golod 1932–1933 gg.–obshaya tragediya narodov SSSR: nacionalno-regionalniy aspekt // *Sovetskie nacii i nacionalnaya politika v 1920–1950 godi: Materiali VI mezhdunarodniy nauchnoi konferencii. Kiev, 10–12* oktyabrya *2013 g.* M.: Politicheskaya enciklopediya; Fond «Prezidentskiy centr B.N. Elcina», 2014.

Kondrashin V.V. Golod 1932–1933 godov: Tragediya rossiyskoy derevni. M.: ROSSPEN, 2008.

Kondrashin V.V. Hlebozagotovitelnaya politika v godi pervoy pyatiletki i eyeo rezultati (1929–1934 гг.) M.: Politicheskaya enciklopediya, 2014.

Kondrashin V.V. Istochniki po istorii goloda v SSSR nachala 1930-h gg. v Arhive Prezidenta RF // *Rossiya i mir XIX–XX v. // Sbornik k 85-letiu Borisa Vasilevicha Ananicha.* Liki Rossii: Sankt-Peterburg, 2017.

Kondrashin V.V. Krestyanstvo Rossii v grazhdanskoy voine: к voptosu ob istokah stalinizma. M.: ROSSPEN, 2009.

Kondrashin V.V. Kuda idet Rossiya? // *Vestnik Soveta Federazii.* № 7 (sentyabr 2016 goda).

Kondrashine Victor. La famine en URSS. 1929–1934. Paris: AEHREE, 2013.

Kondrashin V.V. Mezhdunarodnaya konferenciya v Avstralii o problem goloda v mirovoi istorii XX v. // *Gosudarstvennaya vlast i krestyanstvo v konce XIX–nachale XXI veka: sbornik statey.*

Kolomna: Kolomenskiy gosudarstvenniy pedagogicheskiy institut, 2009.

Kondrashin V.V. Mezhdunarodnii proekti po agrarnoy istorii XX veka i regionalnoy istoriografii // *Centr i periferiya.* Saransk: NII gumanitarnih nauk. 2008. № 4.

Kondrashin V.V. Replika // *Kuda idet Rossiya?.. Krizis instituzionalnih sistem? Vek, desyatiletie, god / pod obshei. red. T.I. Zaslavskoi.* M.: Logos, 1999.

Kondrashin V.V. Sovetskaya derevnya glazami VCHK-OGPU-NKVD»: к itogam mezhdunarodnogo proekta // *Voprosi istorii.* 2013. № 7.

Kondrashin V.V. Sudbi rossiyskogo krestyanstva v tvorcheskom nasledii V.O. Kluchevskogo // *Istorik i istoriya: materiali Vstrossiyskoy nauchnoy konferenzii, posvyashennoy 170-letiu V.O. Kluchevskogo.* Penza, 2010.

Kondrashin V.V. The 20-th Ctntury History of Russia: through the history of the peasantry and agriculture // *Russkaya revoluziya. 1917. 2017.* Izdatelstvo Universiteta Yensey, Jonse-universitet Respubliki Koreya, Seul, 2017.

Kondrashin V.V. The Famine of 1932–1933 as a common tragedy of the nations of the USSR: national and regional aspects // *Northeast Asian Studies.* Vol. 20. February 29, 2016. Center for Northeast Asian Studies Tohoku University.

Kondrashin V.V. Tri sovetskih goloda // *Agrarnoe razvitie i prodovolstvennaya politika v XVIII–XIX vv. Problemi istochnikov i istoriografii: istoriya i sovremennost.* Orenburg: OGPU, 2007. Chast 2.

Kornilov G.E. Agrarnaya modernizaciya Rossii v XX veke // *Ezhegodnik po agrarnoy istorii Vostochnoy Evropi. 2012 god: Tipologiya i osobennosti regionalnogo agrarnogo razvitiya Rossii i Vostochnoi Evropi X–XXI vv.* M.; Bryansk, 2012.

Kornilov G.E. Demograficheskie katastrofi v XX veke na Urale // *Ezhegodnik po agrarnoy istorii Vostochnoy Evropi. 2016 god. Agrarnoe osvoenie i demograficheskie processi v Rossii X–XXI veka.* / Otv. Red. E.N. Shveykovskaya. M., Ufa, 2016.

Koroleva N.G. Hozyastvenno-economicheskaya deyatelnost zemstv v period modernizacii rossiyskoi derevni (1907–1914 гг.). M.: ROSSPEN, 2011.

Kostyashev U.V. Povsednevnost poslevoennoy derevni: Iz istorii pereselencheskih kolhozov Kaliningradskoy oblasti. 1946–1953 gg. M.: Politicheskaya enciklopediya, 2015.

Koznova I.E. Stalinskaya epoha v pamyati krestyanstva Rossii. M.: Politicheskaya enciklopediya, 2016.

Krasilnikov S.A. Krestyanskaya ssilka v Zapadnoy Sibiri v 1930-e godi. 2-e izd. M.: ROSSPEN, 2009.

Krestyanskiy front 1918–1922 gg. Sbornik statey i materialov. Sost. i nauch. red. A.V. Posadskiy. M.: AIRO–XXI, 2013.

Krestyanstvo i kazachestvo Rossii v usloviyah revolucii 1917 g. i grazhdanskoi voini: regionalno-nacionalniy aspekt. / Otv. red. V.V. Kondrashin, V.A. Urchenkov. NII gumanitarnih nauk pri Pravitelstve Respubliki Mordoviya, Saransk, 2017.

Krestyanstvo v rossiyskih transformaciyah: istoricheskiy opit i sovremennost: Materiali III Vserossiyskoy ionalnoy) konferencii istorikov-agrarnikov Srednego Povolzhya (Izhevsk, 17–19 oktyabrya 2010 г.) / Otv. red. G.A. Nikitina. Izhevsk: Izd-vo «Udmurtskiy universitet», 2010.

Krestyanstvo i vlast v istorii Rossii XX veka: Sbornik nauchnih statey uchastnikov Mezhdunarodnogo kruglogo stola («Zhurnal «Vlast», Institut sociologii RAN, Moskva, 12 noyabrya 2010 g.) / pod. red. P.P. Marchenya (otv. red.), S.U. Razina. M.: APR, 2011. Vip. 2.

Kurakin A.A. Recenziya na knigu «XX vek i selskaya Rossiya» // *Krestyanovedenie: Teoriya. Is-*

toriya. Sovremennost: uchenie zapiski. 2005. Vip. 5. M., 2006.

Matsui Noriaki. V poiskah ustavov kolhozov 1956 g. (Zametki issledovatelya) // *History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 1)*, Tokyo, 2002. S. 123–133; XX vek i selskaya Rossiya. Vipusk perviy. S. 314–325.

Mazur L.N. Rossiyskaya derevnya v usloviyah urbanizacii: regionalnoe izmerenie (vtoraya polovina XIX–XX v.). Ekaterinburg: Izd-vo Ural. Un-ta, 2012.

Mentalitet i agrarnoe razvitie Rossii (XIX–XX vv.). Materiali mezhdunarodnoy konferencii. M.: Rossiyskaya politicheskaya enciklopediya (ROSSPEN), 1996.

Nefedof S.A. Uroven zhizni naseleniya i agrarnoe razvitie Rossii v 1900–1940 godah. M.: Izdatelskiy dom «Delo» RANHiGS, 2017.

Nikolaev G.A. Volzhskoe krestyanstvo vo vtoroy polovine XIX–nachale XX veka: etudi po istorii i atnologii. Cheboksari: CHGIN, 2016.

Nikulin V.N. Krestyanskie promisli na Severo-Zapade Rossii (vtoraya polovina XIX–nachalo XX veka. SPb.: Dmitriy Bulanin, 2017.

Noveyshie issledovaniya istorikov Povolzhya. Vipusk 2. Penza: GUMNIC, 2011.

Okuda Hiroshi. XX vek i selskaya Rossiya // *Rodina. Rossiyskiy istoricheskiy zhurnal.* 2005. № 10. Rossiya i Yaponiya: ot Putyatina do Putina.

Okuda Hiroshi. Revoluziya v Povolzhie: derevnya pri rezhime Stalina 1929–1934 (na yaponskom yazike). Tokio, 1996.

Okuda H. «Ot sohi k portfelu»: derevenskie kommunisti i комsomolzi v processe raskrestyanivaniya (1920-e–nachalo 1930-h gg.) // *Istoriya stalinizma: itogi i problem izucheniya: materiali mezhdunarodnoiy nauchnoi konferencii. Moskva, 5–7 dekabrya 2008 g.* M.: ROSSPEN, 2011.

«Pervaya zapoved»: Hlebozagotovki v SSSR. 1931–1932 / Otv. sostavitel V.V. Kondrashin. M.: MFD, 2016.

Proekti preobrazovaniya agrarnogo stroya Sibiri v XX v.: vibor putey i metodov modernizacii / Ilinih V.A., Andreenkov S.N., Rinkov V.M. i dr. Novosibirsk: Sibprint, 2015.

Pyankov S.A. Krestyanskoe hozyaystvo Permskoy gubernii v konce XIX–nachale XX veka. Ekaterinburg: RIO UrO RAN, 2014.

Rinkov V.M., Ilinih V.A. Desyatiletie potryaseniy: selskoe hozyastvo Sibiri v 1914–1924 gg. Novosibirsk: Institut istorii SO RAN.

Rossiyskoe krestyanstvo d epohu revoluciy i grazhdanskoi voini: regionalno-nacionalniy aspekt. / Otv. red. V.V. Kondrashin, V.A. Urchenkov. NII gumanitarnih nauk pri Pravitelstve Respubliki Mordoviya, Saransk, 2017.

Rossiyskoe krestyanstvo v usloviyah voennih, socialno-economicheskih i politicheskih potryaseniy: mat. mezhd. nauch.-prakt. konf. Michurinsk: Izd-vo Michurinskogo GAU, 2016.

Russkoe krestyanstvo i Pervaya mirovaya voyna: sbornik nauchnih statey / pod red. P.P. Marchenya (otv. red.), S.U. Razina. M.: Izd-vo Ippolitova, 2016.

Sibirskaya derevnya: problemi istorii: sb. nauch. tr. / otv. red. V.A. Ilinih. Novosibirsk: Sinprint, 2015. Vip. 3.

Sovremennaya rossiysko-ukrainskaya istoriografiya goloda 1932–1933 gg. V SSSR / nauch. red. V.V. Kondrasin. M.: ROSSPEN, 2011.

Sovremennoe krestyanovedenie i agrarnaya istoriya Rossii v XX veke / pod red. V.V. Babashkina. M.: Politicheskaya enciklopediya, 2015.

Stalinizm i krestyanstvo: sbornik nauchnih statey i materialov kruglih stolov i zasedaniy teoreticheskogo seminara «Krestyanskiy vopros v otechestvennoy i mirovoy istorii / pod red. P.P.

Marchenya (otv. red.), S.U. Razina. M.: Izd-vo Ippolitova, 2014. Vip. 4.
Sudzuki Takeo. Reformi i krestyanskaya obshina v dorevolucionnoi Rossii // *History of the Russian Peasantry in the 20 th Century (volume 2)*, Tokyo, 2004. Edited by Hiroshi Okuda. The University of Tokyo. February 2004. Cirje. Discussion paper series. Faculty of economics University of Tokyo.
Sudzuki Takeo. Moderniziruyshayasya Rossiya i selskaya obshina // *XX vek i selskaya Rossiya.* Vipusk perviy.
Takeda Iuka. XX vek i selskaya Rossiya. Vipusk perviy. S. 364–391.
Takeda Iuka. Struktura zanyatosti na sele i lichnoe podsobnoe hozyastvo v period economicheskogo rosta // *XX vek i selskaya Rossiya.* Vipusk 2.
Tsentr agrarnih issledovaniy RANHiGS: Krestyanovedenie. 2016. Tom 1; 2017. Tom 2. № 1, 2.
Verbickaya O.M. Selskaya semiya na etape socialno-ekonomicheskih transformaciy 1985–2002 гг. M.: Institut rossiyskoy istorii RAN; Centr gumanitarnih iniciativ, 2017.
Yastrebinskaya G.A. Taezhnaya derevnya Kobelevo. Istoriya sovetskoi derevni v golosah krestyan: 1992–2002. M.: Pamyatniki istoricheskoy misli, 2005.

要旨: 本稿では，20 世紀ロシア農業史の焦眉の諸問題が分析されている。それらは，ロシアにおける農民革命，内戦への農民の関与，農業集団化，1932～1933 年の飢饉，農民意識の諸問題，農業研究史等である。本稿では，同時にこのテーマに関する国際プロジェクトの情報を含んでいる。これを踏まえた本論の結論は，ロシア農業史研究における国際協力の継続が必要であるということであり，とりわけ 20 世紀後半の農業史に関してそうである。

キーワード: 農業史，焦眉の諸問題，農業集団化，1932～1933 年の飢饉，ロシア農業史研究者の国際協力